

ほーほーどり

我孫子野鳥を守る会

No. 236

2014年

1～2月号

2014年の年頭に当たって

会長 間野吉幸

明けましておめでとうございます。皆様におかれましては清々しい新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

私は昨年の年頭のご挨拶で「会の目的を達成するために、私達の活動でチェンジすべきところはチェンジしましょう。手賀沼に水鳥が戻る環境作りは、多くの困難が伴います。その一助として地元の野鳥情報の発信や啓発活動を通じ、野鳥を愛する仲間を増やしたいと考えています」と述べました。

昨年の会の活動を振り返って見ますと会員の熱心な活動で具体的成果が上がって来ています。探鳥会、鳥類調査、各種データベースの整備や啓発活動など従来の活動も活発に行われました。更に昨年は新たな会の発展を目指し、新しい行事に取り組みました。

ここで代表的事例を紹介します。新入会員に当会の活動を知って貰う「新入会員向けオリエンテーション」の実施、会員の野鳥知識の向上と親睦を兼ねた「野鳥サロン」開催（2ヶ月に1回）、一般市民会に活動を知っていただく「会の活動紹介パワーポイント」作成と上演（JBF、あびこ市民フェスタ）、手賀沼の野鳥の現状を知って貰うための新聞取材対応や一般市民や小学生向け講演などによる啓発活動を行いました。JBFでは「会の活動紹介パワーポイント」など新しい試みが評価され「パン賞」を受賞しました。この受賞は11年ぶりでした。このように昨年は色々な機会を通じ、会の活動と手賀沼周辺の野鳥の情報を発信して来ました。

今年は昨年芽生えたチェンジの芽を更に発展させたいと思います。私達は色々な形で野鳥を楽しんでいます。そこから得られた個々の色々な事柄を会の活動に繋げたいと思います。

多くの会員が会の行事に参加し、更に積極的に活動への提案をお願いします。その中から新しい息吹が生まれ会の活動が活性化して来ます。会の活動は楽しく、そして野鳥の啓発活動を通じ人と野鳥との共存が出来る環境作りに繋がれば素晴らしいと思います。

今年は皆さんの力で更なる会の発展に繋がる年にしましょう。

行 事 案 内

1月手賀沼探鳥会とカウント

期 日 1月12日(日) 雨天中止
集 合 我孫子市役所 午前9時
案 内 2014年最初の定例探鳥会です。
カモ類やカイツブリなど、冬鳥の
最盛期。今年も多くの鳥達と出会
えることを祈念しつつ、手賀沼の
冬を満喫しましょう。

解 散 正午
担 当 小林(寿)、野口(紀)

水田、手賀沼、上空を見ながら探鳥
しましょう。
参加希望の方は下記までご連絡下
さい。
解 散 午前11時30分
担 当 鈴木静治

2月手賀沼探鳥会とカウント

期 日 2月9日(日) 雨天中止
集 合 我孫子市役所 午前9時
案 内 厳寒の季節。カモの種類、数が一
番多く見られる時期です。
また、手賀沼周辺にも目を向け、
ベニマシコ等の小鳥達や猛禽類
にも期待しましょう。
寒さ対策もお忘れなく。

解 散 正午
担 当 北原

小見川・神之池・江戸崎探鳥会(再掲)

期 日 1月5日(日) 雨天中止
集 合 我孫子駅北口 午前8時
案 内 毎年恒例の新年探鳥会で、これまで
正月3日に実施していましたが、
今回から三が日は避け、第一日曜日
の開催としました。探鳥コースは例
年通りで、利根川堤防沿いの小見川
の葦原～神之池(神栖市)～江戸崎
(稲敷市稲波干拓地)の3箇所を
回ります。猛禽類から水鳥まで多彩
な冬鳥が楽しめ、目玉は葦原のチュ
ウヒ、神之池のミコアイサ、江戸崎
のオオヒシクイです。昨年はオオヒ
シクイが他のエサ場に行っており、
空振りでしたが、今年は是非リベン
ジしたいですね。また、もう一度コ
チョウゲンボウにも会いたいと思
います。新たな出会いや思わぬ出会
いを求めて、2014年の探鳥をスタ
ートしましょう。

1月、2月ピオトープ調査

期 日 1月9日(木) 雨天延期
2月6日(木) 雨天延期
集 合 手賀沼ピオトープ 午前9時30分
案 内 1～2月は林の鳥、河原の鳥、カモ
類、カモメ類の水鳥の冬鳥非常に多
くが見られる季節です。昨年は野鳥
を1月25種、2月25種観察出来
ました。アリスイ、シメも現れたこ
ともあります。この季節、花はサザ
ンカの花、草木の実が見られる程度
です。虫・両生類は冬眠するため見
られません。1-2月はピオトープ、

交 通 自家用車分乗です。便乗者は一人
1,500円を運転者にお渡しください。
申し込みの際、自家用車を提供
可能な方はその旨ご連絡ください。
持 物 観察用具、雨具、防寒具、昼食(途
中購入可)
申 込 桑森亮まで
担 当 松田、桑森

井頭公園探鳥会

期日 2月1日(土) 雨天中止
集合 我孫子駅北口 午前8時
交通 マイクロバス
(富士交通 047-459-9191)
案内 恒例の探鳥会です。例年日曜日に行っていましたが、子供たちのサッカー大会と重なり公園が賑やかなので今年は土曜日に行います。山野の鳥と水辺の鳥を同時に観察できる井頭公園です。昨年は43種観察しました。ミヤマホオジロ、アカゲラ、アオゲラ、トラツグミ、ベニマシコ、ヨシガモ、ミコアイサ・・・ 楽しみです。
定員 28名
費用 3,000円
持物 観察用具、防寒具、弁当、(念のため雨具)
申込 染谷迪夫まで
申込期限 1月20日
担当 染谷、小林(寿)

渡良瀬遊水地探鳥会

期日 2月16日(日) 雨天中止
集合 我孫子駅北口 午前8時
案内 渡良瀬遊水地は約33平方kmもの広大な面積があり、2012年には通称ラムサール条約(水鳥湿地保全条約)に登録された絶好の探鳥地です。
谷中湖では沢山の水鳥、三つの調節地では季節の小鳥、上空ではチュウヒ、ハイロチュウヒ、チョウゲンボウ、ノスリ等の猛禽類が期待できます。
合わせて東洋大板倉キャンパス付近の田圃や池も探鳥します。
交通 自家用車分乗です。同乗者は一

人1,500円を運転者にお渡し下さい。
持物 観察用具、防寒具、念のため雨具、(昼食は近くのラーメン店を利用する予定ですが、途中購入も可能です。)
申込 野口隆也まで
担当 石渡、野口(隆)

市民手賀沼探鳥会

期日 1月26日(日) 雨天中止
集合 水の館正面玄関 午前9時30分
案内 手賀沼の冬鳥に会いましょう！
今が旬！我孫子市環境レンジャーと共催で、市民向けの手賀沼の水鳥ウォッチングです。
手賀沼の水鳥は数も種類もこの時期が一番多く、水鳥のオスは最も美しくなっています。水鳥達をウォッチングしてみませんか。暖かい身支度でおいでください。
持物 観察用具、筆記用具
服装 暖かい服装と履きなれた靴
申込 不要
担当 染谷

銚子カモメ探鳥会

期日 3月2日(日) 雨天中止
集合 我孫子駅北口 午前7時30分
案内 銚子漁港は日本有数のカモメ観察ポイントで、3月になると渡りのカモメが集結し膨大な数になります。カモメの基本8種をはじめホイグリンカモメやカナダカモメなど珍しい種も期待できます。昨年は、クロワカモメという超珍鳥にも出会えました。海ガモも楽しみで、銚子の定番シロリガモに、アカエリカイ

ツブリも最近は毎回観察しており、ウミウ、ヒメウ、クロサギなど銚子ならではの鳥たちも待っています。カモメは種類だけでなく年齢によって羽色が変わり識別が難しいですが、だからこそその楽しみもあります。皆でカモメウォッチング、識別にチャレンジしてみましょう。

- 交通 自家用車分乗です。便乗者は一人1,500円を運転者にお渡しください。申し込みの際、自家用車を提供可能な方はその旨ご連絡ください。
- 持物 観察用具、雨具、防寒具、昼食(途中購入可)
- 申込 桑森亮まで

1月役員会案内

- 日時 1月12日(日) 13:30~16:30
- 場所 水の館3階研修室
- 議題 平成25年度の反省と平成26年度に向けて
会報237号掲載予定記事について
第五回「野鳥サロン」について
報告事項
- ・第3四半期会計報告
 - ・関係団体関連報告
 - ・第3回「野鳥サロン」
 - ・我孫子市民フェスタ
- その他(議題のある場合は野口隆也までご連絡ください)

第四回「野鳥サロン」のご案内

第四回「野鳥サロン」を下記により開催します。

今回は『小鳥たちの食卓』をテーマに、毎年のJBFの当会ブースで好評の「庭に鳥を呼ぶ」をベースに山野の鳥たちの食性に関しご紹介し、自由意見交換をいたします。

野鳥サロンも、会を追うごとに充実してきました。皆様に親しみやすい内容で、これまでの開催に劣らぬ充実したひとときを幹事一同目指していますので、皆さまの参加をお待ちしています。

記

- 日時 1月25日(土) 10:00-12:00
- 会場 我孫子北近隣センター 並木本館
第2,3会議室
(我孫子駅北口から徒歩7分)
- テーマ 「小鳥たちの食卓」

内容

山野の鳥たちの食卓
JBF2013の当会ブースで紹介した「庭に鳥を呼ぶ」をベースに山野の野鳥の食性に関して解説します。

当会の会員の写真より「スライドショー：鳥たちの食卓」
これまでの写真集収録写真より、鳥たちの採食写真を集め、スライドショーを作成し、紹介します。

- 会費 一人300円(茶菓代ほか)
- 担当 小林寿美子、相良直己、佐々木隆、鈴木静治

申込先 相良直己

行 事 報 告

10月手賀沼探鳥会

調査日時 2013.10.13 9:00~12:10

晴 弱風 26

昨日は真夏日でしたが、今日は打って変って秋風が吹く爽やかな天候での探鳥会で、気候が良くなり参加者も40名を超えました。鳥見のほうは、今年はカモ類の到来が遅いようで、コガモがようやく確認できた程度でしたが、オナガガモは来ているようです。サギ類は多く見られ、まだチュウサギが田んぼに群れて採餌していました。今日の目玉は渡り時期のノビタキで、下沼のいつもの観察場所からノビタキポイントの染井入落まで歩いてみましたが、一部の人たちが目標のノビタキ2羽を観察できたものの、全員とはいかず少し残念でした。渡り時期も最終盤のタイミングだったと思います。上沼では、春から暫く見られなかったミサゴが戻ってきており、杭の上で悠々と餌を食べていました。また、この時期では珍しいコアジサシが下沼で観察できました。冬羽で嘴が黒くなっており、アジサシかコアジサシか迷う個体でしたが、大きさ等からコアジサシとしました。来月の探鳥会にはカモ類をはじめ冬の水鳥が出そろっていることでしょう。

<認めた鳥> カイツブリ、カワウ、ゴイサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、アオサギ、コブハクチョウ、カルガモ、コガモ、ミサゴ、トビ、キジ、バン、オオバン、クサシギ、セグロカモメ、コアジサシ、キジバト、カワセミ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ノビタキ、エナガ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス 計33種
番外：カワラバト

<探鳥班> 藤川敏彦、柴本法子、小林秀美、村瀬和則、佐々木隆、金子幸子、川越久枝、大久保陸夫、肥後邦彦、常盤孝義、野口隆也、松本葉子、松本勝英、川村美智子、川村美恵子、畠中暁美、猪爪敏夫、小澤淳宏、武藤康之、船津登、北崎正典、間野吉幸、類地佑子、

田丸喜昭、小玉文夫、小林博之、小林美智子、関口小夜子、野口紀子、浅野利幸、谷山晴男、田中恒雄、石渡成紀、西嶋昭生、千葉史子、千葉洋、佐藤弘美、六角昭男、村松寿夫、松下勝子、大野勇亮(担当) 桑森亮 計42名
<カウント班> 田中功、染谷迪夫、金子雅幸
調査日時 2013.10.13 9:20~11:55

晴 東微風 23

調査種	上沼	下沼	合計
カイツブリ	8	9	17
カワ	57	53	110
アマギ	0	1	1
ダイギ	12	9	21
チュウギ	0	6	6
コギ	3	1	4
アギ	3	6	9
コブハクチョウ	8	4	12
カルガモ	91	0	91
コガモ	8	0	8
オオバン	0	7	7
セグロカモメ	0	1	1
合計	190	97	287

<ピオトープ班> 猪爪敏夫、鈴木静治、間野吉幸、池田日出男、蒲田知子、船津登
調査日時 2013.10.3 9:30~11:00

晴 弱風 29

雨台風通過後の晴れ、湿度あり暑い。ピオトープは野の草が繁茂し、中の野鳥は見えない。沼はオオバン、カイツブリの鳴き声位で水鳥少ない。上空を飛ぶツバメが多く、木にとまるチュウサギ、ヒヨドリ、ホオジロの囀り、多くのモズの高鳴きあり。渡り鳥は観察されなかった。観察した野鳥14種71羽、蝶8、蜻蛉3、バッタ4、蜘蛛2、他に蛾、カマキリ、コオロギ、蝉、蜂、カメムシ、ゾウムシ、蛙、各1種観察できました。また木の花2、木の実3、野草の花11、野草の花穂、実12種を見ることが出来ました。

<認めた鳥> カイツブリ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、アオサギ、カルガモ、オオバン、ツバメ、ヒヨドリ、モズ、ホオジロ、スズメ、ハシボソガラス、ハシブトガラス

計 14 種

11月手賀沼探鳥会

調査日時 2013.11.10 9:00~11:30

曇 強風 19

午後から雨との天気予報のせいか、参加者が 23 名と少なめでした。

北千葉導水センター東のいつもの鉄塔に、ハヤブサがいないかと観察しているとハヤブサが飛んできて、鉄塔に止まり、私たちを歓迎しているようでした。手賀沼の上沼では、カンムリカイツブリが多く見られましたが、カモ類は、ほとんど見られませんでした。下沼では、100 羽程のマガモの群、ヒドリガモ、ミサゴが認められました。風が強くなってきましたので、早めに探鳥会を切り上げました。

< 認めた鳥 > カイツブリ、カンムリカイツブリ、カワウ、ダイサギ、コサギ、アオサギ、コブハクチョウ、マガモ、カルガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ミサゴ、ノスリ、ハヤブサ、バン、オオバン、セグロカモメ、キジバト、ハクセキレイ、ヒヨドリ、モズ、シジュウカラ、メジロ、アオジ、オオジュリン、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス 計 30 種
番外カワラバト

< 探鳥班 > 野口隆也、村松寿夫、肥後邦彦、間野吉幸、千葉洋、千葉史子、猪爪敏夫、松田幸保、田丸喜昭、田中恒雄、小林博之、六角昭男、相良直己、渡辺俊文、北崎正典、鈴木静治、小林寿美子、藤川敏彦、松下勝子 (担当) 船津登 計 20 名

< カウント班 > 木村稔、小玉文夫、田中功
調査日時 2013.11.10 9:20~12:25
曇 北西風、漸次強くなる

調査種	上沼	下沼	合計
カイツブリ	5	2	7
カンムリカイツブリ	14	16	30
カワ	39	55	94
ダイサギ	2	1	3
コサギ	5	3	8
アサギ	13	2	15

コブハクチョウ	8	0	8
マガモ	0	245	245
カルガモ	30	13	43
コガモ	16	60	76
オオサギ	6	0	6
オナガガモ	20	0	20
キンクワ	0	20	20
スズガモ	0	30	30
オオバン	7	8	15
ユリカモ	18	0	18
セグロカモ	0	2	2
合計	183	457	640

< ビオトープ班 > 猪爪敏夫、鈴木静治、間野吉幸、池田日出男、船津登

調査日時 2013.11.13 9:30~11:30
晴 強風 10~16

(予定の 11.7 は雨の為 11.13 に延期実施)

天気良く白い富士山まで見渡せるが、風が強いので沼は白波が立ちマガモの群れ、カルガモ、カワウが沼の上を飛ぶ位しか見えない。渡って来たコガモが池で、タヒバリが田で見られた。観察した野鳥 13 種、蝶 4、蜻蛉 1、木の花 1、木の実 4、野草の花 3、野草の花穂 4 種を見ることが出来ました。

< 認めた鳥 > カワウ、コサギ、カルガモ、コガモ、キジ、タヒバリ、ヒヨドリ、モズ、ホオジロ、カワラヒワ、スズメ、ハシボソガラス、ハシブトガラス 計 13 種

秋ヶ瀬公園探鳥会

10月5日

雨天のため、残念ながら中止になりました。
(幹事) 桑森亮

福島潟探鳥会

11月17日

【幹事報告】

参加者全員が一番気にしていた当日の現地福島潟(新潟市豊栄)の天気は、“晴れ”で、残雪もなく、風もなく、快適で好調な鳥見が期待されました。到着早々、白雪の神々

しいばかりに雄大清新な飯豊連峰を背景に、遠くガン・カモの群れがあちこちと飛び交うのが遠望され、気分は一層高揚してきました。ところが、「雁晴れ舎(ガンバレシャ)」(観察舎)への沼辺の観察路から見たところ今冬はいつになくカモ類の羽数・種数が少なく、コガモばかりが目にはいる。お陰というか、あの妖しく美しいコガモの翼鏡を、改めて近距離から十分に堪能することが出来ました。アメリカコガモ、シマアジあたりがヒョットして混じっていないか? 鶺鴒の目鷹の目で探しましたが、もとより叶わず。トビ、チュウヒ、オオタカ、ノスリといった猛禽類がたびたび現われ、懼れたカモの群れが一斉に逃避回避の飛行をする光景とその羽音の迫力に、源平の富士川の戦いで平家の慌てた逃走ぶりをつい思い起こしました。昼食後は、隣接の干拓地で、ヒシクイ(オオヒシクイ)、コハクチョウが、地上で休憩・採餌したり、時折、群れで飛行して廻るのを、その野生の逞しさと飛行の美しさと力強さ、ダイナミズムに見惚れながら、双眼鏡やカメラ、肉眼を通じて、愛でることが出来ました。心中秘かに期待していたハクガン、シジュウカラガン、オジロワシといった鳥は遂に叶わず、更に、青空に純白の屏風のように聳える飯豊連峰をバックにタゲリの大群が華麗でダイナミックな群飛を繰り返す光景も今回は残念、楽しむこと叶わず。上越新幹線利用の日帰りの探鳥行であったが、想定内の鳥果と冬の越路の自然と雰囲気、好天の下、心も体もゆったりと楽しむことが出来ました。

<認めた鳥>カイツブリ、カンムリカイツブリ、カワウ、ダイサギ、コサギ、アオサギ、ヒシクイ、コハクチョウ、マガモ、カルガモ、コガモ、オナガガモ、ハシビロガモ、トビ、オオタカ、ノスリ、チュウヒ、チョウゲンボウ、キジ、バン、オオバン、カワセミ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、モズ、オオジュリン、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス 計31種

<参加者>小山雄司、小山和子、古賀嗣朗、古賀道子、吉田隆行(幹事)金子雅幸、田中功 計7名

* 本探鳥会は、感想文投稿はありません。

第13回ジャパンバードフェスティバル (JBF2013)

<総括報告>

11月2日(土)、3日(日)の2日間、JBFの当会行事は鳥博広場テント、カッパの噴水前テント、手賀沼漁港前テントの3か所で行われた。

初日は時々弱い雨に降られたが、2日間通して会員の積極的な対応により成功裡に終了した。

40吋モニターによる「音と映像による野鳥と探鳥地の紹介」や「パタパタ工作」の新しい取り組み、ポイントを絞って身近で分かり易く展開した「庭に鳥を呼ぶ」の工夫、スコップ最大11台に増強した湖畔BW、綿密な事前準備がされた船上BW、分かり易く目立つ導線看板の設置等々、全員の努力が見事に結集されました。

お陰様で当会への来場者数2,400名、観察された鳥が湖畔BW27種・船上BW34種、応援会員延83名・前日準備も入れて延106名、新入会員5名と、ほとんどの項目で昨年を上回る結果になり、加えて11年ぶりに「バン賞」を受賞することができた。

しかし、反省点として、今回の目的の一つであった新入会員の増強策については今後に課題を残し、また船上BWに使用された船のエンジントラブルについては2年続きであり、実行委員会に強く要望したい点となりました。(野口(隆))

<パネル展示>

今回は、これまでより大きなサイズ(A3サイズ)で会員の傑作写真を展示し、その写真の素晴らしさに多くのお客様が魅了されていました。掲載した写真は、鳥写真30枚、会の活動記録の写真9枚です。

また、会の紹介、探鳥地図(定例・遠出)、最近2年間の探鳥記録のパネルも展示しました。(相良)

<スライドショー>

今年の新しい試みとして、会員の鳥写真の傑作に、鳥の鳴き声の音声をつけ、簡単な鳥の紹介をテロップで流すスライドショーを自動操作で放映した。プロの写真家からもお

褒めの言葉を頂いた秀作揃いの写真に分かりやすい説明で注目を浴びました。なお、音声は日本野鳥の会のご厚意により、音源の提供をいただきました。

紹介した鳥は、定例探鳥会 35 種、遠出探鳥会 34 種の計 69 種でした。（相良）

<パタパタ工作 & 野鳥塗り絵>

新企画「パタパタ工作」はミサゴ、アカシヨウビン、オオムラサキ の 4 種。

お子さんを中心に好評で、来場者が途切れることなく、2 日間で 230 余羽が羽ばたきました。お子さんたちの笑顔が心に残りました。

「野鳥塗り絵」(オオバン、オオヨシキリ、カワセミ、キジ、シジュウカラ、ツバメ、フクロウ、マガモ、ヤンバルクイナの 9 種)も従来通り実施。一人で複数枚を塗る方、家で塗りたいからと原画を持ち帰る方などもあり、根強い人気がありました。

来場記念の「野鳥カード」も人気で、どれにしようかと迷う方も多かった。在庫が足りなくなってしまったのが残念でした。

(野口(紀))

<庭に鳥を呼ぶ>

庭にある草木の実、果物、人工飼料計 30 種を生け花方式で、3 種の手作り餌フィーダーをブースの軒先に展示しました。フィーダー上に小鳥の写真付きの「庭に鳥を呼ぶ」の表示をしたので分かりやすく、軒先に吊るしたジュースパック、ペットボトル、殻付きピーナッツのリースは手軽な材料で出来、ベランダでも置けるため好評でした。次回 15 種を展示し、フィーダーに小鳥が採餌する様子が分かるよう展示したい。（鈴木）

<船上バードウォッチング>

昨年同様、2 日間で 6 便運航し、総数 213 名のお客様が乗船され、ほぼ 1 時間の手賀沼遊覧と探鳥を楽しみました。手賀沼の主ミサゴが全便で間近に観察でき、カモ類やオオタカなど 2 日間で 34 種を記録しました。

今年は、ブースでの案内ポスターカラー化、観察できる鳥の写真の表示など、ディスプレイを工夫したところ、多くの方々が関心を示し、その効果が、乗船申し込みも 11 時には全便満席となり、大盛況に終わることができた。（桑森）

<湖畔バードウォッチング>

1 日目は午後小雨模様ながら、総じて天気

は温暖、順調に開催できた。会員持ち寄りも含めスコープ約 10 台設置、案内役の会員も 2 日間とも 10 人以上を配置し、合計 969 人の皆さんにバードウォッチングを楽しんで頂いた。観察された野鳥は 27 種 + 番外 2 種。

「今日観察された野鳥」の写真ボードや手賀沼の野鳥の変遷ボードは好評。湖畔までの導線についてはステージ脇に通路を少しとり、案内看板(2 か所)を新設し改善された。

(六角)

第三回「野鳥サロン」の実施報告

第三回野鳥サロンが 11 月 23 日(土)に我孫子北近隣センターで開催されました。

今回は参加者が 26 名で女性陣が多く、寛いだ雰囲気の中でフリーな意見交換が行われました。意見交換のきっかけのテーマは「ヒメアマツバメ」というあまり馴染みがない野鳥で、物珍しさもあって皆さんが集まって下さったのかも知れません。

担当幹事の桑森から「御茶ノ水に生息するヒメアマツバメについて」パワーポイントを活用して報告をしました。

ヒメアマツバメは元々日本にいなかった野鳥ですが、50 年ほど前に日本で初認後、分布が拡大傾向にあり、関東以南の太平洋岸を中心局所的に生息しています。都心の御茶ノ水での繁殖は、2005 年から 25 階建の某オフィスビルの最上部換気口の中での営巣が確認されており、その後少しずつ増えています。ヒメアマツバメはアマツバメ目ですが、渡り鳥ではなく留鳥で、この冬も元気に飛び回っています。

プレゼンの合間にも色々な質問や意見が出され、生態や特徴、繁殖環境をはじめ何故日本に生息地を広げたのかなど、他種の鳥も引用されながら、活発な意見交換、論議が行われました。

ヒメアマツバメはイワツバメの巣を利用して繁殖することから、イワツバメの営巣地に見られる傾向があるようで、そのうち我孫子周辺でも見られるようになるかもしれませんね。

今回で野鳥サロンも三回目になりますが、ますます多くの皆さんが参加し、楽しい会に

なるよう期待しています。

<参加者>小澤淳宏、野口隆也、間野吉幸、田中功、金子雅幸、弘貴さと子、畠中暁美、船津登、松本葉子、千葉洋、千葉史子、北崎正典、木村稔、松田幸保、松下勝子、石渡成紀、関口小夜子、青木典子、小林敏之、小林美智子、野口紀子、金子幸子、(担当幹事) 蒲田知子、北原建郎、小玉文夫、桑森亮

長寿大学探鳥指導

11月8日(金)、7名の会員が参加し、長寿大学3年生の探鳥指導を行った。快晴の中43名の学生と谷津田を歩いたが、今年は全般に冬鳥の飛来が遅く残念ながら認められた鳥は多くなかった。

探鳥の楽しさを十分に理解して貰えたかは疑問だが、谷津田の素晴らしさだけは判って貰え、来夏はホテルを是非見に来たい...との声が多く聞かれた。

来年度はもう少し遅い時期の実施を要望して、探鳥指導を終えた。

<認めた鳥>カワウ、コサギ、トビ、キジバト、コゲラ、キセキレイ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ジョウビタキ、ウグイス、シジュウカラ、ホオジロ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス 計18種

<参加者>小玉文夫、鈴木静治、野口隆也、

松田幸保、松本勝英、六角昭男、(担当) 金子雅幸

我孫子市民フェスタ 2013

「やっぱりこの街が好き 未来に向けて今やろう」の全体キャッチフレーズで、我孫子市民フェスタ2013が11月30日(土)、12月1日(日)、アビスタほか手賀沼公園で開催され、幸い両日とも小春日和の好天に恵まれ多数の来場者で賑わいました。

我孫子野鳥を守る会は、昨年同様アビスタ1Fの工芸工作室に他の環境分科会10団体とともにブースを設け、会の活動状況などを示した展示パネルと野鳥のスライドショーを、また中央のテーブルにはぬり絵に加えて新たにパタパタ工作を楽しむスペースを設けました。スライドショーでは、手賀沼周辺の身近な野鳥の映像を、それぞれの音声と同期させながら26インチのTVモニター上に、テロップによる簡潔な文章とともに紹介しました。立ち止まって熱心に見入る来場者が多く見られました。パタパタ工作は若いお母さん達にも人気があり、女性会員の懇切丁寧な教示に緊張しながらも、お子さんと一緒に楽しんでいる様子でした。

なお環境分科会会場に訪れた人の数は、関係者を含め初日が216名、同じく2日目が267名でした。(担当)田中(恒)、蒲田

手賀沼親子ふれあい探鳥会

日時 11月24日(日) 9:30~12:00 晴

行程 手賀の丘公園~手賀沼(下沼)~手賀の丘公園

内容 手賀沼流域フォーラム地域企画の一環として、一般市民を対象にして当会会員が案内し、子供に探鳥の楽しさを伝える親子ふれあい探鳥会を実施しました。

当日は風も少なく天候に恵まれ、野鳥も41種が観察されました。カワセミ池ではキセキレイ、カワセミをじっくり観察し、手賀沼に向かう手前ではノスリの大旋回をゆっくりと観察することができました。手賀沼ではスズガモ、ミコアイサ、カンムリカイツブリ等の水鳥に加え、チョウゲンボウの飛翔、更には待望のミサゴも出てくれました。帰りの田圃では多くのヒバリが私たちを歓迎してくれました。

鳥合わせの後、野鳥ビンゴの結果に応じた当会特製の「野鳥カード」や「塗り絵セット」のプレゼントに子供たちは大喜びでした。

解散後も数組の親子が談笑していたことがとても印象的でした。

<認めた鳥> カイツブリ、ハジロカイツブリ、カンムリカイツブリ、カワウ、ダイサギ、コサギ、アオサギ、コブハクチョウ、カルガモ、ホシハジロ、スズガモ、ミコアイサ、ミサゴ、ノスリ、チョウゲンボウ、バン、オオバン、ユリカモメ、セグロカモメ、キジバト、カワセミ、コゲラ、ヒバリ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、タヒバリ、ヒヨドリ、モズ、ウグイス、エナガ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、アオジ、クロジ、カワラヒワ、スズメ、ハシボソガラス、ハシブトガラス 計 41 種

<参加者> 一般 10 名、会員：北崎正典、船津登、藤川敏彦、小林博之、小林美智子、松下勝子、古出夏妃、畠中暁美、小林寿美子、青木典子、金子幸子、間野吉幸、古出洋子、相良直己、田中恒雄、桑森亮、(担当)野口隆也 計 27 名

第 2 3 回手賀沼ふれあい清掃

「一人ひとりの力でもっときれいな手賀沼に」をスローガンとした手賀沼統一クリーンデーが、今年も 12 月 1 日に実施され当会も 9 名の有志が参加した。

担当区域の手賀沼公園から根戸新田までをゴミを拾いながら歩き、沼側歩道下にも長靴組が降りて活動したが、毎年実施している効果なのか思いの他ゴミは少なく 1 時間弱で作業を終了し、素敵なエコバックを記念として頂き散会した。

<参加者> 小澤淳宏、小林寿美子、佐々木隆、鈴木静治、野口隆也、松田幸保、間野吉幸、吉田さん(一般)(担当)金子雅幸

11 月役員会報告

日 時 11 月 10 日(日) 13:30~16:00

場 所 水の館 3 階研修室

1. 2014 年度上期行事予定

資料に基づき、行事と担当者を下記の通り決定しました。

月	日(曜日)	行 事	担 当(下線:主担当)
4 月	3(木)	ビオトープ調査	鈴木
	13(日)	手賀沼探鳥会・カウント	探鳥会:桑森
		定期総会、事務局会議	事務局
	27(日)	秋ヶ瀬探鳥会	金子雅、桑森
5 月	1(木)	ビオトープ調査	鈴木
	3(土)	筑波山探鳥会	染谷、鈴木
	11(日)	Enjoy 手賀沼探鳥会、役員会	探鳥会:野口隆
	未定	野鳥サロン	畠中、船津、松下、松田
6 月	1(日)	松之山探鳥会	金子雅、松田
	2(月)		
	5(木)	ビオトープ調査	鈴木
	8(日)	手賀沼探鳥会・カウント、事務局会議	探鳥会:松田
	15(日)	笹川・印旛探鳥会	野口隆、鈴木
7 月	3(木)	ビオトープ調査	鈴木

	13(日)	手賀沼探鳥会・カウント、役員会	探鳥会：松本
	27(日)	映写会(午前)	相良・田中恒
		懇親会(昼食含む)	畠中、小林寿、松下
	未定	野鳥サロン	松本、類地、六角、石渡
8月	3(日)	ホテルの夕べ	染谷・木村
	7(木)	ピオトープ調査	鈴木
	10(日)	手賀沼探鳥会・カウント、事務局会議	探鳥会：小林寿、野口紀
	31(日)	稲敷探鳥会	松本、六角
9月	4(木)	ピオトープ調査	鈴木
	14(日)	手賀沼探鳥会・カウント、役員会	探鳥会：北原
	27(土)	奥日光探鳥会	木村、六角
	28(日)		
	未定	野鳥サロン	小澤、金子幸、金子雅、蒲田

2. 会報 236 号掲載予定記事

資料に基づき、掲載予定記事を検討のうえ決定しました。

3. 我孫子市民活動フェスタ

資料に基づき、開催期間中(11/30~12/1)の対応を検討のうえ決定しました。

4. 芋煮会と岡発戸・都部谷津探鳥会

資料に基づき、芋煮会と探鳥会の対応を検討のうえ決定しました。

5. 第四回「野鳥サロン」

資料に基づき検討し、開催は1月25日(土)、テーマは「小鳥たちの食卓」、会場は近隣センター並木本館の予定で了承されました。

6. 報告事項

・ジャパンバードフェスティバルの実施結果については別掲の通り。

・第2四半期会計報告 資料に基づき、検討の結果了承。

・関係団体関連報告

亀成川を愛する会から要請の探鳥指導は2月2日(日)午前中に実施予定。

緑の基本計画の見直し委員会は10月より始まり来年の3月に報告書作成予定。

・2013年の守る会写真集は芋煮会以降に完成予定。

以上

故諏訪哲夫氏を悼む

故諏訪哲夫氏は、我孫子野鳥を守る会の幹事として会の運営や会員の指導育成に尽力され、会の発展に寄与されました。

思い起こせば、故諏訪氏は平成22年夏、病に倒れそれ以来闘病生活を続けてきましたが、平成25年11月30日、治療の甲斐もなく安らかに永眠されました。

生前は、バードウォッチングはもとより、野鳥の写真撮影に情熱を燃やし、珍しい鳥や素晴らしい鳥の写真を数多く残しました。

春夏秋冬、暑さ寒さをいとわずに親しい鳥仲間と、ひたすら鳥を追い求め野山を駆け巡った元気な姿を再び見ることはできません。

享年七十七歳、私達は惜しい逸材を失いました。ご冥福を祈ります。 大久保陸夫

布佐周辺の冬の鳥見(その1)

朝にベニマシコ、夕にコミミズク

鈴木静治

(前号からの続き)

コミミズクは日中にも活動するフクロウ類のため見る機会が多いせいで、習性を知っているつもりでしたが、案外知らないことに気が付き調べてみました。

関連する書籍で調べましたコミミズクのプロフィールを以下に紹介します。翼長は 1m、体重は 350g と軽く、雌の方が雄より大きく、長い翼により軽やかに飛翔でき、極めて規律正しく餌探しが出来ます。埒はフクロウの森の古木と異なり、意外にも河原等の草原です。シベリアの営巣も地上の草原のようです。欧州のコミミズクは南と西へ渡りをし、サハラ砂漠を越え越冬するものもあるようです。活動の広がりやハタネズミの多少にきびしく依存しています。コミミズクの目は黄色で大きく、目の周りは黒く、目は鷹と同じく優れたズームレンズになっており、更にほんの僅かな星明かり程度でも鋭敏に感じる網膜細胞を持ち、また僅かな音でも顔のパラボラアンテナでとらえ、首もくるくると回すことが出来ます。このような餌探しの機能を持ち、餌を探すと、飛翔音を立てずに飛ぶことが出来ます。これは羽弁の縁が細かく刻みこまれ、羽ばたきの音を吸収します。この原理は新幹線のパンタグラフに細かい襷をつけ騒音防止に応用されているようです。嘴と脚の爪は鷹と同じで鋭く、脚の足指前 2 本、後ろ指 2 本でしっかり獲物を掴みます。以前、五霞町で掴まえたのネズミの新鮮な内臓を引き出し美味そうに食べるコミミズクを観察したことがありますが、私達が獲りたて新鮮な魚の刺身を食べるような感じでした。

次のシーズンもベニマシコ、コミミズクが来てくれることを楽しみにしています。また、冬場、下沼田～上沼田にミヤマガラス、コクマルガラス(会報 No.226, 2012.5-6 月号)が飛来し、タカ類(会報 No.230, 2013.1-2 月号)も良く見られますのでこれらを観察する楽しみもあります。なお、コミミズクについてはクリス・ミード著、斎藤慎一郎訳「フクロウの不思議な生活」晶文社 2001 年、柴田敏隆著「鳥のおもしろ行動学」ナツメ社 2006 年を参考に記載しました。

布佐周辺の冬の鳥見(その2)

渡り途中のノビタキ、冬鳥のホオアカ

1. ノビタキ(野鶺鴒)

2007-2013 年 6-7 月富士山裾野の朝霧高原にアカモズを探しに行きますと、草の繁みを飛び回りフェンス、杭、木の上にとまり澄んだ声でヒーヒーヒョロリーと囀る黒い頭、背尾羽、オレンジの胸、体下面が白い 3 色の小鳥ノビタキ雄の姿は一度見れば強く印象に残ります。初夏本州中部の高原、奥日光の戦場ヶ原、北海道の低地の草原で繁殖するノビタキは春、東南アジアから渡ってきますが、我孫子では春はあまり見られていないようです(手賀沼の鳥、)。早く繁殖に適した場所を確保するために渡りの途中で道草を食わないためか、春と秋の渡りのルートが違うためか判りません。

ノビタキの巣は上部が庇状になった土手の窪みや、地上では山状に積もった枯れ草を押し広げてドームのようにし、その中に細長い草の茎や葉を主材としてお椀のような巣を作ります。淡青緑色有斑の卵を 5-6 個産み雌だけが 14-15 日間抱卵し、孵化後は 12-14 日で巣立ちます。餌としては昆虫類を主食とし、ハチ、アブ、アリ等を食べます。布佐周辺で見られるのは秋の渡り 9 月末-10 月中旬で、丁度この頃黄色の花セイタカアワダチソウが野原一面咲く頃です。言い換えますと、この花が咲き始めるとそろそろ冬羽のノビタキが来るかなと思うわけです。冬羽のノビタキ 1-2 羽が畦に生える背の高い草にとまる様子は遠くからは茶色っぽいスズメがとまっているように見えますが、稲刈り後のスズメは 1-2 羽でとまることはなく、

数十羽以上の群れで行動しています。何かおかしいかと双眼鏡でみると尾を回し高鳴きするモズでなければ、ノビタキです。雄雌とも冬羽の全体的に淡い橙色となり雄の頭部も黒みが薄れています。我孫子で初めて私がノビタキを見たのは 2008 年頃中野さんに案内して頂いた北新田ですが、諏訪さんがその環境に似た利根川のゆうゆう公園で探されたところ「居た」という話を聞き、大久保さんから場所を教えて頂き、2008-2009 年 10 月は利根川堤防近くでよくノビタキを観察しました。堤防の斜面の中腹に丁度よいセイタカアワダチソウがあり、そこにとまると写真を撮るには誠によいところでした。ところが堤防の草は定期的に刈り取られるので、数日後行ったところセイタカアワダチソウは刈られ、ありませんでした。葦原の葦の上にしかとまらなくなりました。最近特に震災後は、堤防の草刈りは頻繁に行われ、ピオトープは高い葦原になっていますので居ても非常に探しにくくなりました。もうノビタキは見えないのかと思っていたところ 2010 年 10 月初旬、手賀川河原の葦にとまるノビタキを見つけ、2011 年 9-10 月には下沼田の低地集水路に近い田の畦のセイタカアワダチソウに 2-3 羽がとまり、草の生えた田で虫をフライイングキャッチする様子が朝、夕見られるようになりました。2012 年 10 月は下沼田、手賀川河原で見られました。2013 年 9 月末-10 月中旬は低地集水路近くの下沼田、中沼田及び手賀沼沿いの「染井入落」の葦にとまる様子が観察されました。ノビタキは旅鳥として我孫子には約 2 週間見られますが、休耕田の草地が二番穂が伸びている田の脇の畦又は川岸にセイタカアワダチソウ、葦、ホソアオゲイトウ、スキ、セイバンモロコシのような 1-2m の背の高い草の上部にとまり草地にいる昆虫等をフライイングキャッチし、虫を捕まえたら又同じ背の高い草の上に戻ります。一度居る場所を見つければ相当長い時間観察できます。2 月下旬、中国大陸に近い台湾の小金門島、農家前の灌木にとまるノビタキの雄をみたことがあります。ここでは冬鳥として越冬するようです。なお 2012-2013 年 10 月、手賀川岸の葦原でノビタキを探している時、木にとまるアリスイを見ることもありました。アリスイも北の方からこの頃渡って来る時期なのでしょう。ノビタキが見られなくなると暫くして、林、川原にジョウビタキのヒッヒッ クァクアの鳴き声が、カシラダカ、アトリ、ベニマシコ、ホオアカ、オオジュリン、林にヤマガラ等の可愛らしい冬の小鳥がみられるようになります。

2. ホオアカ(頬赤)

前記ノビタキと同じように朝霧高原で 2007-2013 年 6-7 月、白馬山麓のアルプス平の高山植物園で 2007 年 7 月末、スキーリフトのワイヤーにとまりチョッチチリンジと囀る姿を見ていましたが、初夏に草原で囀り赤茶色の頬と耳羽が目立ち、頭から背は青灰色で喉に黒い縦斑がある小鳥は、スポーツ選手の着るセーターのような感じがします。ホオアカ、ノビタキ等の居る高原にはカッコウの鳴き声があります。これはカッコウとよく似た卵を産むオオヨシキリ、コヨシキリ、アオジ、ホオジロ、ホオアカ、ノビタキ等の巣に託卵するためです。ホオアカの卵はカッコウと同じ大きさ、ノビタキはやや小さいようです。模様が似ているため騙されるのでしょうか。布佐周辺では、見えないと思っていたところ 2010 年 3 月に浅間前、高野山新田、4 月に下沼田で見ることができました。2011 年は 3-4 月、10-12 月浅間前、千間橋で、2012 年 1-4 月浅間前、中沼田、11 月浅間前、千間橋で見られました。2013 年も 2-4 月下沼田、中沼田、千間橋、発作で見られました。ところでホオアカは北日本の低地の草原、本州中部以南では高原で繁殖します。巣は地上又は灌木の低い枝上に枯れ草でお椀のような巣を作り灰青色等の地に斑のある卵を 4-6 個産み、雌だけが 14 日間抱卵し、孵化後 10 日で巣立ちます。夏の餌は主に昆虫類とその幼虫です。冬期は北日本から西日本に渡ります。冬の餌は主に雑草類の種子を食べます。低地の水田の畦、川原、堤防の草原に単独で居ることが多いと言われています。草叢で種子を食べている時は非常に見つけ難いものです。手賀沼ピオトープに自転車で行く時、浅間前、下沼田、中沼田の道脇の葦、低地集水路岸の背の高い草に単独でとまっているのを見ることがあります。必死で探しても見つからないのに、この様に時間が無い時に限ってジックリ観察、撮影したい鳥が現れるのは皮肉なものです。そこはよくオオジュリン又はホオジロがとまっている場所です。オオジュリン、ホオジ

口は人の気配を感じると草の上から下へスルスルと隠れるのですがホオアカは脅かさない限り草の高い位置を変えません。平均しますと月2回は見ていませんが、なかなか見えない小鳥に会えた時の幸せ感ば鳥見冥利につきます。今シーズンもホオアカに会えるよう田、川、野原を歩き回ろうと思っています。なお本文を書くにあたり、中川雄三監修「ひと目でわかる野鳥」成美堂 2010、高野伸二著「フィールドガイド日本の野鳥」日本野鳥の会 2007、黒田長久監修、柿澤亮三解説、小海途銀次郎執筆「日本の野鳥 巣と卵の図鑑」世界文化社 1999、上田恵介監修、本山賢司執筆「鳥類図鑑」東京書籍 2006 を参考にしました。

鳥 だ よ り

- | | |
|-------------------------------------------------------|----------------------------------------------|
| 9.21 [南部地区] ツミ(3) 8:47、成鳥が巣に餌を持参し幼鳥が巣に飛来し食べていた
飯泉仁 | 9.28 [弁天下] クサヅキ(4) 2号排水路で
中野久夫 |
| 9.22 [南部地区] ツミ(1) 9:18、幼鳥が木の枝で休んでいた
飯泉仁 | 9.29 [千間橋] ハブサ(1) 川の上空を飛ぶ
鈴木静治 |
| 9.22 [北新田] ルヅ(2) 3号排水路土手で
中野久夫 | 9.29 [布瀬新田] フウゲンボウ(1) 鉄塔の下部にとまる
鈴木静治 |
| 9.22 [千間橋] フウゲンボウ(2) 16:20、終末処理場上空を飛翔
飯泉仁・飯泉久美子 | 9.29 [布佐] カケス(1) 森の上空を飛ぶ
鈴木静治 |
| 9.23 [北新田] ヒ(1) 飛翔
中野久夫 | 9.29 [北新田] ヒ(5) 帆翔
中野久夫 |
| 9.23 [北新田] フウゲンボウ(1) 電柱から飛去
中野久夫 | 9.29 [弁天下] アオサシキ(2) 2号排水路で
中野久夫 |
| 9.24 [北新田] ルヅ(3) 落し堀の土手で
中野久夫 | 9.29 [弁天下] ルヅ(4) 休耕畑で
中野久夫 |
| 9.26 [北新田] ヒ(1) 飛翔
中野久夫 | 9.29 [南部地区] ツミ(1) 10:45、枝に飛来
飯泉仁・飯泉久美子 |
| 9.26 [北新田] 材木(1) 電柱上
中野久夫 | 9.30 [下沼田] ルヅ(3) 水田の畦の杭にとまる
鈴木静治 |
| 9.26 [北新田] ノリ(1) 越流堤横柳上
中野久夫 | 9.30 [千間橋] フウゲンボウ(1) 水田の畦の杭にとまる
鈴木静治 |
| 9.27 [布佐] ヒ(1) 上空高く滑空
鈴木静治 | 9.30 [弁天下] アオサシキ(3) 2号排水路で
中野久夫 |
| 9.27 [弁天下] ルヅ(4) 休耕畑で
中野久夫 | 9.30 [弁天下] ウズラヅキ(1) 2号排水路で
中野久夫 |
| 9.27 [高野山] サシハ(1) 樹上にとまる
平岡考・岩見恭子・齋藤武馬 | 9.30 [弁天下] ルヅ(4) 休耕畑で
中野久夫 |
| 9.28 [南部地区] ツミ(1) 8:33、幼鳥が枝に止まっていた
飯泉仁 | 9.30 [北新田] コガモ(5) 越流堤横水溜り
中野久夫 |
| 9.28 [浅間前] フウゲンボウ(1) ルゾウガライに追われる
鈴木静治 | 10.01 [下沼田] フウゲンボウ(1) 掴まえた獲物を電柱上で食べる
鈴木静治 |
| 9.28 [千間橋] ヒトリカケ(2) コガモ(3)と川中を泳ぐ
鈴木静治 | 10.01 [千間橋] ハブサ(1) 鉄塔の上部にとまる
鈴木静治 |
| 9.28 [北新田] ルヅ(1) 3号排水路土手で
中野久夫 | 10.01 [発作] フウゲンボウ(1) 電線にとまり
休む
鈴木静治 |
| 9.28 [弁天下] アオサシキ(2) 2号排水路で
中野久夫 | 10.01 [発作] アリス(1) 葎原の中の低木に |

- とまる 鈴木静治
- 10.02 [浅間前] ㊦㊧㊨㊩(1) 飛んで電柱
にとまる 鈴木静治
- 10.03 [上沼田] トビ(1) 上空高く飛ぶ
鈴木静治
- 10.03 [千間橋] ハブサ(2) 鉄塔上部にとまり
鳴く 鈴木静治
- 10.03 [中沼田] ㊦㊧(3) 低地集水路岸の
㊦㊧の先にとまる 鈴木静治
- 10.03 [弁天下] ㊦㊧(4) 休耕畑で
中野久夫
- 10.03 [手賀沼(上)] トビ(1) 水面上空で
カラスと争う 安野昌彦
- 10.03 [手賀沼(上)] ミコ(1) 水面上空を
飛翔 安野昌彦
- 10.07 [片山新田] ハイホウ(1) 沼の葦原
上を飛ぶ 鈴木静治
- 10.07 [片山新田] ㊦㊧㊨㊩(1) 電柱にと
まる 鈴木静治
- 10.07 [下沼田] オカ(1) 農道の電柱にと
まる 鈴木静治
- 10.07 [下沼田] ㊦㊧㊨㊩(2) 鉄塔周辺を
鳴きながら飛ぶ 鈴木静治
- 10.07 [水道橋] トビ(1) 上空で鳴く
鈴木静治
- 10.07 [千間橋] ハブサ(1) 上空高く飛び鉄
塔上部にとまる 鈴木静治
- 10.07 [染井入新田] ㊦㊧(2) 川岸の葦に
とまる 鈴木静治
- 10.07 [弁天下] ㊦㊧(2) 休耕畑で
中野久夫
- 10.08 [江蔵地] ㊦㊧㊨㊩(1) 葦原上空を
一直線に飛ぶ 鈴木静治
- 10.08 [北新田] トビ(2) 農地より飛び立つ
鈴木静治
- 10.08 [中峠] トビ(1) 上空高く飛ぶ
鈴木静治
- 10.08 [古戸] トビ(1) 上空を飛ぶ 鈴木静治
- 10.09 [手賀の丘公園] マガ(1) 13:08、ヒ
キの枝に飛来し、餌を埋め込む
飯泉仁・飯泉久美子
- 10.10 [東中新宿] ツ(1) 9:00、自宅南南東
方向から鳴き声 飯泉久美子
- 10.10 [弁天下] ㊦㊧(2) 休耕畑で
中野久夫
- 10.12 [北新田] オカ(1) 越流堤横柳上か
ら飛去 中野久夫
- 10.12 [北新田] ㊦㊧㊨㊩(1) 電柱から飛
去 中野久夫
- 10.13 [光ヶ丘 広池学園] イヅビ(1)
9:18、㊦㊧の枝に止まり、周囲を警戒
飯泉仁
- 10.13 [光ヶ丘 広池学園] イヅビ(3)
9:59、㊦㊧の木の枝にとまり、餌を捕
食 飯泉仁
- 10.13 [弁天下] オカ(1) 耕田で㊦㊧を捕
食 中野久夫
- 10.13 [弁天下] ㊦㊧(2) 休耕畑で
中野久夫
- 10.13 [手賀沼] ミコ(1) 上沼 1
染谷迪夫・金子雅幸・田中功
- 10.14 [光ヶ丘 広池学園] イヅビ(1)
9:50、㊦㊧の枝に飛来 飯泉仁
- 10.14 [光ヶ丘 広池学園] イヅビ(1)
11:01、楷の実を食べに飛来 飯泉仁
- 10.14 [酒井根 6 丁目 下田の森] マ(7)
13:24、加(1)の木に飛来
飯泉仁・飯泉久美子
- 10.14 [光ヶ丘 広池学園] ㊦㊧(2)
11:59、雄 1 羽、若鳥 1 羽が低木を移動
飯泉仁・飯泉久美子
- 10.14 [光ヶ丘 広池学園] コサ(1)
11:59、低木に飛来 飯泉仁・飯泉久美子
- 10.15 [下沼田] ㊦㊧㊨㊩(1) 電線より飛
び出す 鈴木静治
- 10.18 [片山新田] ㊦㊧㊨㊩(1) 電柱にと
まる 鈴木静治
- 10.18 [下沼田] ㊦㊧(1) 葦原の看板にと
まる 鈴木静治
- 10.18 [下沼田] ㊦㊧㊨㊩(1) 鳴きながら
㊦㊧㊨㊩ 2 羽を攻撃 鈴木静治
- 10.18 [下沼田] ノ(1) 電柱にとまる
鈴木静治
- 10.18 [千間橋] ㊦㊧(1) 川岸の葦にとま
る 鈴木静治
- 10.18 [布佐] オカ sp(1) 森の上で㊦㊧ 2 羽
に追われる 鈴木静治
- 10.18 [布瀬新田] トビ(1) ㊦㊧㊨㊩ 3 羽
から攻撃される 鈴木静治
- 10.18 [千間橋] マガ(4) 川の中州近くを
群れで泳ぐ 鈴木静治
- 10.18 [北新田] ハブサ(1) 電柱から飛去
中野久夫
- 10.19 [光ヶ丘 広池学園] マ(3) 9:56、

- | | | | |
|----------------------------------------------------|----------------------------|----------------------------------------------|----------------------------|
| ウイソノ木に飛来 | 飯泉仁 | 飛ぶ | 鈴木静治 |
| 10.19 [下沼田] ㊦㊧㊨㊩(1) 電柱にとまる | 鈴木静治 | 10.27 [光ヶ丘 広池学園] ㊦㊧㊨(1) 11:05、 | 加㊩㊪の木に飛来し地鳴き |
| 10.19 [水道橋] ㊦㊧㊨(2) 田の杭、畦にとまる | 鈴木静治 | 10.28 [酒井根 6丁目 下田の森] ㊦㊧㊨(1) | 10:01、北方向から南側の林の中に移動 |
| 10.19 [水道橋] ㊦㊧㊨㊩(1) 田の杭にとまる | 鈴木静治 | | 飯泉仁 |
| 10.19 [千間橋] ㊦㊧(1) 田の杭にとまる | 鈴木静治 | 10.28 [酒井根6丁目 下田の森] ㊦㊧㊨㊩㊪㊫(1) 9:22、成鳥雄が林縁を移動 | 飯泉仁 |
| 10.19 [北新田] ㊦㊧㊨㊩(2) 2号排水路で | 中野久夫 | 10.30 [古戸] ㊦㊧㊨㊩㊪(1) 河原の葦より | 鳴き声 |
| 10.19 [北新田] ㊦㊧㊩㊪(2) 休耕畑で | 中野久夫 | 10.31 [下沼田] ㊦㊧㊨㊩㊪(1) 電柱にとまる | ㊦㊧㊨㊩㊪㊫㊬㊭㊮㊯㊰㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿ |
| 10.21 [東中新宿] ㊦㊧㊨㊩㊪(1) 13:00すぎ、 | 飯泉久美子 | 10.31 [下沼田] ㊦㊧㊨(1) 田の上空高く旋回 | しながら飛ぶ |
| 10.21 [片山新田] ㊦㊧㊨㊩㊪(1) 飛んで来て電柱にとまる | 鈴木静治 | 10.31 [発作] ㊦㊧㊨㊩㊪(1) 電柱上にとまる | 鈴木静治 |
| 10.21 [浅間前] ㊦㊧㊨㊩㊪(1) 田の上空を飛ぶ | 鈴木静治 | 10.31 [布瀬新田] ㊦㊧㊨㊩㊪(1) 鉄塔上部にとまる | 鈴木静治 |
| 10.21 [北新田] ㊦㊧㊩㊪(1) 農道脇で | 中野久夫 | 10.31 [千間橋] ㊦㊧㊨㊩㊪(1) ㊦㊧㊨㊩㊪と川岸の葦にとまり鳴く | 鈴木静治 |
| 10.22 [上沼田] ㊦㊧㊨(1) ㊦㊧㊨㊩㊪㊫㊬㊭㊮㊯㊰㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿ | より追われる | 10.31 [北新田] ㊦㊧(1) 電柱上 | 中野久夫 |
| 10.22 [上沼田] ㊦㊧㊨㊩㊪(1) 上空で㊦㊧㊨㊩㊪㊫㊬㊭㊮㊯㊰㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿ | ㊦㊧㊨㊩㊪㊫㊬㊭㊮㊯㊰㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿ | 10.31 [北新田] ㊦㊧㊨㊩㊪(1) 電柱上 | 中野久夫 |
| 10.22 [水道橋] ㊦㊧(1) 叢より飛び出す | 鈴木静治 | 10.31 [つくし野] ㊦㊧㊨㊩㊪㊫(1) 樹上で | 中野久夫 |
| 10.22 [水道橋] ㊦㊧㊨㊩㊪(1) 上空を飛ぶ | 鈴木静治 | 11.01 [北新田] ㊦㊧(1) 電柱上 | 中野久夫 |
| 10.22 [千間橋] ㊦㊧㊨(1) 川の上空を飛ぶ | 鈴木静治 | 11.01 [北新田] ㊦㊧㊨㊩㊪㊫(1) 電線上 | 中野久夫 |
| 10.23 [大森] ㊦㊧㊨㊩㊪(1) 電柱のとまる | 鈴木静治 | 11.01 [久寺家] ㊦㊧㊨㊩㊪(1) 電柱上 | 中野久夫 |
| 10.23 [浅間前] ㊦㊧㊨㊩㊪(1) 空を低空で飛ぶ | 鈴木静治 | 11.02 [新木] ㊦㊧㊨㊩㊪㊫(1) 上空を飛ぶ | 鈴木静治 |
| 10.23 [浅間前] ㊦㊧(1) 田の畦の杭にとまる | 鈴木静治 | 11.02 [北新田] ㊦㊧㊨㊩㊪㊫㊬㊭㊮㊯㊰㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿ | 電線上 |
| 10.23 [別所] ㊦㊧㊨㊩㊪㊫㊬㊭㊮㊯㊰㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿ | 調整池を泳ぐ | 11.03 [下沼田] ㊦㊧(1) 鉄塔下部にとまり | 鳴く |
| 10.23 [別所] ㊦㊧㊨㊩㊪(1) 川岸を歩く | 鈴木静治 | 11.03 [水道橋] ㊦㊧(1) 田の畦の杭にとまる | 鈴木静治 |
| 10.24 [北新田] ㊦㊧(1) 電柱上 | 中野久夫 | 11.03 [千間橋] ㊦㊧㊨㊩㊪㊫(1) 田の畦の杭にとまる | 鈴木静治 |
| 10.24 [北新田] ㊦㊧㊨㊩㊪(1) ㊦㊧㊨㊩㊪㊫㊬㊭㊮㊯㊰㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿ | に追われる | 11.03 [都部新田] ㊦㊧㊨㊩㊪㊫㊬㊭㊮㊯㊰㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿ | 群れで飛び田に降りる |
| 10.25 [布佐平和台] ㊦㊧㊨㊩㊪㊫(1) 竹藪の木の枝にとまる | 鈴木静治 | 11.03 [都部新田] ㊦㊧㊨㊩㊪㊫㊬㊭㊮㊯㊰㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿ | 群れで飛び田に降りる |
| 10.26 [千間橋] ㊦㊧㊨(1) 田、河原を低空で | | 11.03 [手賀沼(上)] ㊦㊧㊨(1) 上空を飛翔 | 安野昌彦 |
| | | 11.04 [千間橋] ㊦㊧㊨㊩㊪㊫(1) 川、田の上 | |

空を飛ぶ 鈴木静治
 11.04 [布瀬新田] ノスリ(1) 雨の中、鉄塔下部にとまる 鈴木静治
 11.04 [布瀬新田] カムカイツブリ(1) 夕暮れの川を泳ぐ 鈴木静治
 11.08 [大作新田] ツグミ(1) 田の中の電線にとまる 鈴木静治
 11.09 [江蔵地] ノスリ(1) 葎原上を飛ぶ 鈴木静治
 11.09 [江蔵地] チョウゲンボウ(2) 斜面林上空を2羽で飛ぶ 鈴木静治
 11.09 [岡発戸新田] ヒ(1) 上空高く飛ぶ 鈴木静治
 11.10 [北新田] ノスリ(1) 飛翔 中野久夫
 11.10 [手賀沼] カムカイツブリ(30) 上沼 14, 下沼 16 木村稔・小玉文夫・田中功
 11.12 [北新田] イカルドリ(2) 青山水門で 中野久夫
 11.12 [北新田] ヒ(2) 飛翔 中野久夫
 11.12 [北新田] ノスリ(1) 電柱から飛去 中野久夫
 11.12 [北新田] チョウゲンボウ(1) 電柱から飛去 中野久夫
 11.14 [東中新宿] ツグミ(1) 7:00 すぎ、自宅上空を鳴きながら通過 飯泉久美子
 11.14 [北新田] ノスリ(1) 電柱から飛去 中野久夫
 11.15 [北新田] イカルドリ(2) 青山水門で 中野久夫
 11.15 [北新田] アリスイ(1) 休耕畑で 中野久夫
 11.15 [北新田] ハヤブサ(1) 電柱上 中野久夫
 11.16 [北新田] イカルドリ(2) 青山水門で 中野久夫
 11.16 [北新田] ノスリ(1) 電柱から飛去 中野久夫
 11.17 [大井新田先手賀沼] ミカド(1) 11:12、水面の中の杭に止まっていた 飯泉仁・飯泉久美子
 11.17 [片山新田先手賀沼] ノスリ(1) 12:18、上空を旋回 飯泉仁・飯泉久美子
 11.17 [上沼田] ヒ(1) 14:04、加に追尾され上空を旋回 飯泉仁・飯泉久美子
 11.19 [北新田] ノスリ(1) 電柱から飛去 中野久夫
 11.20 [江蔵地] ヒ(1) 田、河原上空を旋回飛翔 鈴木静治

11.20 [江蔵地] チョウゲンボウ(1) 標識上より飛び立つ 鈴木静治
 11.20 [北新田] クサギ(1) 4号排水路で 中野久夫
 11.20 [北新田] オオタカ(1) 越流堤横柳上 中野久夫
 11.20 [北新田] ノスリ(2) 電柱上 中野久夫

今回寄せられた鳥の全種名

アオアシシギ、アオサギ、アオジ、アジサシ、アマサギ、アリスイ、イカルチドリ、イソシギ、ウグイス、ウズラシギ、エゾビタキ、エナガ、オオジュリン、オオタカ、オオバン、オオヨシキリ、オカヨシガモ、オシドリ、オナガ、オナガガモ、カイツブリ、カケス、カシラダカ、カルガモ、カワウ、カワセミ、カワラヒワ、カンムリカイツブリ、キジ、キジバト、キセキレイ、キビタキ、キンクロハジロ、クサシギ、ゴイサギ、コガモ、コクマルガラス、コゲラ、コサギ、コサメビタキ、コチョウゲンボウ、コブハクチョウ、サシバ、シジュウカラ、ジョウビタキ、シロハラ、スズガモ、スズメ、セグロカモメ、セグロセキレイ、セッカ、センダイムシクイ、ダイサギ、タゲリ、タシギ、タヒバリ、チュウサギ、チュウヒ、チョウゲンボウ、ツグミ、ツバメ、ツミ、トビ、ノスリ、ノビタキ、ハイイロチュウヒ、ハクセキレイ、ハシビロガモ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、ハジロカイツブリ、ハヤブサ、バン、ヒガラ、ヒドリガモ、ヒバリ、ヒヨドリ、ホオジロ、ホシハジロ、マガモ、マヒワ、ミサゴ、ミヤマガラス、ムクドリ、ムナグロ、メジロ、モズ、ヤマガラ、ユリカモメ、ヨシガモ 計 90 種

<番外種>

アイガモ、アヒル、カワラバト、コジュケイ、バリケン

今回の投稿者の総投稿件数

安野昌彦	72	鈴木静治・猪爪敏夫・間野吉幸・	
飯泉仁	330	池田日出男・船津登	14
飯泉仁・飯泉久美子	157	染谷迪夫・金子雅幸・田中功	21
飯泉久美子	3	中野久夫	93
木村稔・小玉文夫・田中功	31	平岡考	6
鈴木静治	304	平岡考・岩見恭子、齋藤武馬	1
鈴木静治・猪爪敏夫・間野吉幸・ 池田日出男・蒲田知子・船津登	14	総計	1046

(浅井久)

会からのお知らせ

< 新入会員紹介 >

林 憲文（中华民国：台湾桃園市）
渡辺俊文・渡辺千津代（我孫子市）
渡邊浩次・渡邊三代子（柏市）

< ご寄附 >

野口隆也、小林寿美子さんよりご寄附を頂きました。
厚くお礼申し上げます。

< 会員便りへのお願い >

久しく< 会員便り >を割愛しております。
奮っての投稿をお待ちしております。

訃報

当会会員の諏訪哲夫さんがご病気のため、11月30日ご逝去されました。
故人のご冥福を心よりお祈りし、謹んでお知らせいたします。

ほーほーどり No. 236 (2014年1~2月号)

発行 2014年1月1日
発行人 間野吉幸
編集人 猪爪敏夫、古出洋子、小玉文夫、佐々木隆、野口紀子、松本勝英、宮下三禮
事務局 〒270 1154 我孫子市白山3-8-16-104 間野方
連絡先 〒277 0005 柏市柏1001-5 野口隆也 Tel 04-7163-7898
URL <http://abikoyacho.org/>
郵便振替 00140-2-647587 我孫子野鳥を守る会
会費 年会費 2,000円（大学生・高校生 1,000円、中学生以下 500円、家族会員 無料）